

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	アレンジ1
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	恒枝 賢治	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、エンジニア	
学習目的				
楽曲を制作するためには、コンピュータとDAWの使用法、機能を理解することが大切だ。この授業では作曲する上で必要なDAWの機能の知識、打ち込みをするために必要な楽器や機材についてを学び、自らがイメージする曲や音を具現化するためにはどのように操作すれば良いか考え、実行できるようになる。普段耳にしている既存の楽曲をよく分析し、何の楽器がどの位置で、どんな奏法をしているかをよく聞き分け、分析できるような聴き方を意識できることを目的とする。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～6に準拠して授業が進行する。 PCの基本的な操作方法やファイル構造と、DAWの基本的な仕組みや機能、使用方法を理解し、打ち込みの概念や打ち込みのための楽器の基本的な知識、リズムやコードを各トラックを作成して入力、簡単な曲を作成できるスキルを身につける。簡易的なファイルの書き出し方法やファイル形式を理解し、音源を提出できることを目標とする。				
教育方法等				
授業概要	学生個々が持つ音楽性等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。コンピュータで作曲するためには、どのような知識やテクニックが必要であるかを意識しながら受講する。さらに、どのようなスキルがあれば思い描いたサウンドが具現化できるかを考え、様々な情報を入手することを意識する。授業中の制作だけに留まらず、普段から世の中に出回る楽曲と自分のオリジナル楽曲を比較し考え、常に向上心を持って作曲技能や操作方法を発展させることを目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端の音楽等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	0%		
	小テスト	40%	グレード内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	40%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	PCとDAWの操作方法	グレード1対応。ソフトの基本的な操作方法を理解する。		
2回	セッションファイルの設定	グレード2対応。セッションファイルの設定方法ファイル階層や内容を理解する。		
3回	音源の追加と打ち込みについて	グレード3対応。インストゥルメントトラックとMIDIについて理解する。		
4回	トラックとミキサーについて	ミキサーの基本と音の流れを理解する。		
5回	リズムの打ち込み(1)	グレード4対応。ドラムのパーツと基本的なビートについて理解する。		
6回	コードの打ち込み(1)	グレード5対応。コードトラックについて理解する。		
7回	リズムの打ち込み(2)	グレード4対応。単純なリズムセクションの作成し複数のパターンを作成できる。		
8回	コードの打ち込み(2)	グレード5対応。コードトラックを使用し、作成したコード進行をmidiトラックに置き換えることができる。		
9回	ベースの打ち込み	作成してきたコード進行に合わせてベースを打ち込むことができる。		
10回	メロディーの打ち込み(1)	グレード6対応。Key=Cのコード進行に合わせて、簡単なメロディーを作成することができる。		
11回	メロディーの打ち込み(2)	グレード6対応。ワンコーラスのメロディーを作成できる。		
12回	2mixの書き出し	作成した素材をミックスダウンできる。		
13回	ラフミックスの作成	パンとボリュームを操作してバランスを取ることができる。		
14回	まとめ(1)	前期の内容を復習し、制作スピードを上げることができる。		
15回	まとめ(2)	ラフミックスまでの作業を効率よく行うことができる。		